

1、目指す学校像 一人ひとりの生徒を大切にす教育

2、重点目標

1) 学校全般

○建学の精神(正・浄・和)を踏まえた「明の星教育」を中高一貫体制の中で実現する。

生徒は、校訓について放送朝礼やアッセンブリ(全校集会)を通して自分のこととして捉えようとした。

アッセンブリで校訓についてのプリントを読み、内容を再確認すると共に自分の考えを提出することによって、より深い理解に繋がった。

教員は毎日の朝礼、終礼授業等日常の教育活動の中で校訓を意識した指導がなされるよう努めた。

創立50周年という節目にあることを踏まえ「明の星教育」の理解と推進を図ると同時に、今後への課題を設定する。

=達成度 A

2) 教育

○中高一貫教育の中での新教育課程、生活指導の徹底をはかる。

生徒が自分自身を知り自分の存在意義を確認できるような進路選択をすることが肝要であるとの共通理解を得られた。

中高一貫教育の中で進路指導の推進と生活指導のさらなる充実を図る。

=達成度 B

3) 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

校舎建築中においても入試の出願が円滑、安全に行われるよう配慮しながら

入試業務が滞りなく行うことができた。

本校の教育を望む受験生を確保するために、本校の教育内容と結びついた
広報に努める。

=達成度 A

4) 財務

○計画的な財務管理を継続する。

予算執行時における確認によると、ほぼ達成できた。
今後とも更なる安定した財務管理に努める。

=達成度 B

達成度 A ほぼ達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D 不十分

平成28年度 学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

日 時 2017年3月25日(土) 10:30~12:30

場 所 学園会議室

出席者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長
正和会関係 : 高橋会長 梅谷副会長 駒沢副会長 是澤副会長

1) 建学の精神(正・浄・和)を踏まえ「明の星教育」を中高一貫体制の中で実現する。

2) 教育方針・学校行事について

- ・ 他人を認め、尊重する気持ちが培われ、感謝の気持ちを言葉で言い表せるようになった。
- ・ 6年間楽しく過ごすことができ明の星にきて良かった。
- ・ 自由な校風は自分で考える自主性を養っている。
- ・ 部活動では先輩後輩のつながりが強く、卒業後も集まっている。
- ・ 先輩に進路相談ができ、先を見通すことができた。

。

3) 要望

- ・ 生徒たちは、授業進度の違い、授業の質の違いを気にする。先生方には学校の教育方針に納得感を持って臨んでほしいと思う。

平成 28 年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

1. 学校全般

○建学の精神(正・浄・和)を踏まえた「明の星教育」を中高一貫体制の中で実現する

生徒は毎日の放送朝礼やアッセンブリ(全校集会)を通して自分のこととして捉えようとした。アッセンブリで校訓についてのプリントを読み、内容を再確認すると共に自分の考えを提出することによって、より深い理解に繋がった。

教員は毎日の朝礼、終礼授業等日常の教育活動の中で校訓を意識した指導がなされるよう努めた。

新校舎の定礎に校訓に基づく聖書の言葉を刻み、常に校訓に立ち返る風土が醸成されていると感じる。

2. 教育

○中高一貫教育の中での進路指導の徹底をはかる。

中高一貫教育における進路指導について、教員研修会のテーマを「校訓と進路」とし、理念を基盤に置く進路指導について教員が現状を把握し、問題意識を持っている。進路指導と生活指導のさらなる充実が期待される。

3. 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

校舎建築中においても入試の出願が円滑、安全に行えるよう配慮しながら入試業務を滞りなく行っている。分かりやすい資料の作成を通じて、明の星が目指す教育内容を具体的に説明できている。今後も工夫をしながら受験生・保護者の心をつかむ広報活動を行っていくことが期待される。

4. 財務

○財務目標確保

財務に関しては問題無しといえる。

創立 50 周年という節目を迎える中、引き続き財務の健全化および学校経営に直結する定員確保に努め、計画的な予算編成に基づき、安定した経営を実施して欲しい。

以上